

受託中止項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
 7月にご案内いたしました通り、下記の検査項目を受託中止いたしますので代替項目にてご依頼頂きたく、再度ご案内申し上げます。
 弊社におきましては、皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽を重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほど、よろしくお願い申し上げます。

敬 白

記

■実施日

平成 27 年 10月 1日（木）ご依頼分より

■受託中止項目

項目コード	項目名	最終受付日
1217	インタクト I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド (Intact PINP)	平成 27 年 9 月末日

<10月1日以降ご依頼いただいた場合は、下記代替項目にて検査実施させていただきます>

■代替項目

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
1228 (5C120)	I 型プロコラーゲン -N-プロペプチド (total P1NP)	血清 0.4	↓ X	冷蔵 (28日)	2~4	170 ※4	ECLIA	男性 (30~83歳) 18.1~74.1 閉経前女性(30~44歳) 16.8~70.1 閉経後女性(45~79歳) 26.4~98.2 (ng/mL)	 溶血でのご依頼は避けてください(溶血の場合、データが低値傾向となります)。

● I型プロコラーゲン-N-プロペプチド(total P1NP)

骨粗鬆症の治療効果判定、経過観察、診断の補助に有用です。

P1NPはI型プロコラーゲン-N-プロペプチドの略称であり、I型コラーゲンの生成過程で、骨芽細胞から血中に放出される分子量約35,000の蛋白質です。骨芽細胞分化の初期から産生されるため、BAP等の骨形成マーカーよりも早期の骨形成を鋭敏に反映します。

P1NPは、骨粗鬆症治療、特に骨形成促進剤であるPTH製剤(テリパラチド)による治療効果の判定やモニタリング、診断補助に有用と考えられています。

本検査は、P1NPの三量体および単量体を検出しますが、単量体はごくわずかであると推察されているため、三量体のみを検出する従来のIntact P1NPとの相関は良好です。


▼ 疾患との関連

- 骨粗鬆症

▼ 関連する主な検査項目

- 骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ(TRACP-5b)
- 骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)
- オステオカルシン

▼ 検査要項

検査項目名	I型プロコラーゲン-N-プロペプチド(total P1NP)
項目コードNo.	1228
検体量	血清 0.4 mL
容器	X(ポリスピッツ)
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	2~4日
検査方法	ECLIA
基準値(単位)	男性(30~83歳) 18.1~74.1 閉経前女性(30~44歳) 16.8~70.1 閉経後女性(45~79歳) 26.4~98.2 (ng/mL)
検査実施料	170点(「D008」内分泌学的検査の26)
検査判断料	144点(生化学的検査(Ⅱ)判断料)
備考	 溶血でのご依頼は避けてください(溶血の場合、データが低値傾向となります)。

●参考文献

日高 好博：医学と薬学70(2)：357~365, 2013. (検査方法参考文献)

日本骨粗鬆症学会 骨代謝マーカー検討委員会：骨粗鬆症診療における骨代謝マーカーの適正使用ガイドライン 2012年版.